

海軍志願兵検査 殿馬場国民学校
における海軍志願兵検査を視察に
きた牧田警備府長官。18年9月26日



慰問誌「戦ふ堺」 13年以降、市会の発案で中国や南方方面の郷土出身の将兵に向けて、堺芸術報国連盟の編集による慰問誌を発行することになり、数種類の慰問誌がつくられた。「銃後の堺」に続く2集目で17年6月発行（永代町・宇ロ一さん保存）

学校工場 府立堺高等女学校（現泉陽高）も、他の学校と同様、19年春から校内が軍需工場化され、軍衣、双眼鏡など軍需品の生産加工に女生徒が従事させられた。



学校工場 府立堺工業学校（現府立堺工業高）でも、「これまでの授業時限を一変して、工場と同様毎朝7時半から夕5時までぶっとおして行い、午前と午後1回休憩するだけで、普通授業はこの間まったく中止、焼玉エンジンの部分品の生産等に追われた。（19年）」

市役所戸籍兵事課 市役所職員も16年10月、勤務時間外に全職員が加入する報国団として、勤労奉仕をはじめ大政翼賛活動へ動員された。また、廃休執務、夜勤居残り等のため、体をこわし市民病院（現市立堺病院）で受療した職員だけでも全体の3分の1にもなっていると新聞報道された。（写真は、19年に移転する直前の旧庁舎内）



応召農家援護勤労奉仕 各校生徒が麦刈作業に出動。中等学校以上の諸学校は、軍事教練と勤労働員の場と化した。

